

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（修士課程連携特別研修（マスターコース））

香川県 明比 脩平

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1 はじめに

私は、令和6年度修士課程連携特別研修を受講し、約1年間自治大学校で過ごしました。

このコースは、自治大学校で過ごしながら、一橋大学の国際・公共政策大学院の修士課程を1年間で修了するコースです。はじめはイメージもわからず、1年間で修士論文を完成させられるのか、不安があったことを覚えています。

しかし、1年かけて公共政策に関して学び直し、じっくり考える機会ができたことに対して、大きく期待もしていました。

2 マスターコースでの学び

前述のとおり、このコースは1年間で一橋大学国際・公共政策大学院を修了するものです。修了には44単位の取得と修士論文を完成させることが求められます。通常は2年間で修了するところが1年のため、非常に密度の高い時間となりました。

講義は、行政法や地方自治制度など、自治大学校でもおなじみの科目もありましたが、自治大学校内の実践的な研修と比べて、学術的な視点・内容の多い科目もあり、行政に身を置く者にとって耳の痛い話をされることもありました。講義時間も、朝は比較的ゆっくりであることも多いですが、千代田区のキャンパスで21時近くまで行われる日もあり、慣れるまでは非常に苦労しました。

研究についても、ある程度学部時代に方向性を考えていた若い学生たちと異なり、

研修受講決定から急ピッチで研究テーマを考えなければならなかったのは非常に苦労した点と言えます。

3 自治大学校連携コースで学ぶ利点

ここまでは苦労話を多くしてしまいましたが、自治大学校のコースとして大学院生活を送ることができたメリットもたくさんありました。

1点目は、自治大学校の他の研修生と意見交換が気軽にできたことです。大学での学生相互の意見交換も貴重なものでしたが、加えて様々な自治体から集まった自治大学校の研修生と、昼夜問わずいろいろな形で意見交換ができたことは、研究や今後の業務にも資する貴重なものとなりました。お酒を飲みかわすイメージの強い談話室での時間ですが、そんな場所でも貴重なアドバイスやコメントがもらえるのは、自治大学校の寮生活ならではのメリットだと思います。

2点目は、図書室の存在です。一橋大学の附属図書館をはじめ、自治大学校周辺や都心にも多くの図書館が存在し、必要な資料を入手する方法は多種多様です。それでも、夜遅くまで自由に使用できる自治大学校の図書室の存在は、私の研究にとって非常に心強い存在でした。部屋での勉強中に急遽必要となった参考文献を探しに、ふと調べたくなかった項目をすぐに調べるのに重宝していました。また、司書の方に研究内容を相談すると、役に立ちそうな図書をアドバイスいただいたり、探している図書をすぐに見つけ出していただいたりと、大規模な図書館には無いきめ細かなサポートもとても

ありがたいものでした。

3点目は、寮生活のおかげで研究に専念できたことです。一橋大学の他の院生たちは、それぞれの自宅において、家事などを行いながらの生活となります。一方、自治大学校では敷地内に食堂もあり、寮内も毎日清潔に保たれているため、研修や研究に専念しやすい環境が整っていることも大きなメリットでした。

4 大学院での気づきなど

大学院との連携コースでよかった点も多くありました。

1点目は、様々なバックグラウンドを持つ学生との関わりです。自治大学校内の各自治体からの研修生とのつながりに加え、一橋大学では国家公務員や民間企業からの派遣者や、学部卒業後にすぐ進学した、公共の仕事を目指す若い学生との関わりを持つことができます。地方公務員以外の方とも議論を交わし、普段聞くことのできない視点での意見に出会い、非常にたくさんの気づきを得られました。

また、少人数の大学院で教員との距離も非常に近く、気軽に相談をすることができました。指導教官には、いくつかの自治体へヒアリングに連れて行っていただき、単身で聞きに行くとは聞けないような立場の方も交えて、深く実態を聞き取ることができたことも意義深いものでした。

2点目は、幅広い講義内容です。地方自治に深く関係する科目だけではなく、大学院では様々な講義が開講され、視野を広げることができ、自らの興味関心も満たすことができました。経済学などの政策の根底にある理論的な科目や、美術論といった純粋な教養科目も履修し、知的好奇心も満たしながら学ぶことができたことも大学院ならではのと思います。

5 研修生活

最後に、日々の自治大学校での生活について、少しだけ紹介したいと思います。

1年間も寮で生活をしていたので、ともに1年を過ごしたマスターコースやマネジメントコースの皆さんとは、本当に仲良く過ごすことができました。談話室で夕食（そのままお酒）をともにしたり、時には出かけてみたりと、いろいろな思い出を作ることができました。

大学院においても、年齢関係なく友人ができて、学部卒業してすぐの学生とも一緒になって、学園祭で模擬店を出店するなど、ちょっとした青春時代を感じる思い出もあります。

それぞれに別れが辛く感じる友人関係ができたことも、研修生活の大きな財産です。（大学院の卒業式後の飲みの席で、年甲斐もなく涙したことも良い思い出です）

おわりに

地方行政に関する様々な知識を習得し、それに基づいて学生や研修生の仲間たちと議論を交わし、それを踏まえて論文を完成させた1年間は、私にとってかけがえのない財産となりました。

研修前は、これからの地方をよくする「答え」が見つかるかもしれない、と期待しながら研修に臨みましたが、結局そうしたものはありませんでした。安易な「答え」らしきものに飛びつくな、といった講師の言葉が非常に印象に残っています。今後の業務においても、容易に得られる正解に期待することなく、視野を広く持ち、深く考えることを大切にしながら、その中でもあらゆる課題に対して迅速に、果敢に取り組んでいきたいと思っています。